

2020年度第4回学ぶ喜び・ESD 連続公開講座概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇ 開催日時 2020年11月25日(水) 19時～20時30分
- ◇ 方法 ZOOMをもちいたオンライン講演会
- ◇ 参加者数 70名
- ◇ 内容

「子どもたちと共に成長する教師」

奈良教育大学附属中学校 社会科教諭 吉田 寛氏

気持ちだけは若い気持ちでやっている。子どもたちとの雑談を楽しみにしてやっています。

自己分析

① 教職を希望したきっかけ

中学校の時の恩師の影響

「人生は計算通りにはいかない。答えは決して1つではない。結果より過程を大切にしろ。」

こんな先生になりたい、というあこがれ。

あなたの心に残る言葉は？

② 「社会学」との出会い

大学で何を学ぶのか？(高校までの学びと何が違うか？)

高校まで 出された問題を解く。

大学 探究 何を大切にしながら生きていくのか？これからどのように生きていきかという

「思い」に出会う。自分探し。 思いを持てることが大切だ。

社会学：面白いな！ 人間と社会の関係性を探る。

国が変われば、時代が変われば、当たり前が当たり前でなくなる。

色々なことが多面的に見ることができる。

学ぶ楽しさを得ることができた。

③ サラリーマンは遠回り？(営業職・8年間)

社会人経験を積んだほうがいいのか？(大阪府・社会人枠で採用された)

社会人生活の中で「開き直すこと」と「遊び心」を身につけたことが、今も一番役に立っている。

ストレートで教員になっている方は「遊び心」を持った方がいい

「為せば成る、為さねばならぬ何事も、成らぬは人のなさぬ成りけり」 : なんとかなる

営業担当だったころ：不良品に関して裁判になるかもという事態に

「命まで取られへんって」：救いの言葉 悩んでたことがちっぽけなこと

「人事を尽くして天命を待つ」「なんくるないさー」の心持ちを大切にしているようにしている。

→ 保護者対応にも応用できる

企業はお金が絡んでいるので深刻だ。営業は学歴と関係がない。チームをまとめたり、周りを見る力が必要。チームで動くことがとても大事。学校現場より、会社の方がシステムとしてよくできている。

④ 生徒との向き合い方

「教師の多忙(多忙感)」 様々なことへの対応、コロナ対応も求められる。

コロナ禍での問い直し：そもそも「学校」って何のために行くのだろうか？

生徒：「友達に会える」

教師を目指す学生の切実な悩み

- ・スーパーティーチャーになれるか？
- ・学校現場はブラックなの？
- ・保護者対応が大変そう
保護者に育ててもらえばいいと思う。
保護者も不安になっている。「一緒にやっていくというスタンス」がいい。
- ・失敗は避けたい（マニュアルがあればなあ）
マニュアルありきでは息詰まる。もっと失敗してもいいと思う。
- ・経験を積めば「技術・能力」は勝手に磨かれていく。生徒との向き合い方こそが大切。

☆生徒のことを第一に考えるということ

☆生徒に寄り添う気持ち

☆「平等」と「公正」 生徒に合わせた必要性

私の生徒感：一人一人を大切に。「あなたらしさを大切にしたい」

相田光男「セトモノ」『「いのちのバトン」より

個を通して「集団」を育てる「個」のあつまりが「集団」

個の相互の可視化に取り組んでいる。

- ・生徒目線で考えてみる
- ・生徒に任せてみる。ただし、必ず看ている。
- ・認めてあげる
- ・生徒と共に過ごす時間を増やす。

⑤ 楽しい授業

中学校における ESD 社会科における ESD 「問いを深める」

多文化共生社会をテーマに

子どもたちの問いをカギに、心を揺さぶる授業を創りたい

生徒にとって楽しいものであってほしい

授業に ESD の視点を組み込んでみる

人との出会いと ESD

⑥ 総合的な学習の時間って、そもそもどのようなことにこだわりをもって進めていけばいいのか カリキュラムマネジメントが大切

「価値ある学び」とは

- ・「人に出会う学び」から自分自身の生き方への関心につながるようにしたい
- ・合理的・科学的な知識 + 感性・感動 → 行動の変容へ
「もやもやした気持ち」「常に考えてしまう。気になってしまう。」
- ・本質を求めて考える過程が大切だと思う
- ・ESD の評価は難しい すぐに答えがでないからです。答えを求めすぎるのもどうかと思う
- ・ESD を通して育てたい力は、周りを思いやり寄り添いながら、自分らしく生きていくこと